

18年度幸区協働推進事業実施結果一覧

1 区民との協働による区づくりを目指して

	事業名	事業概要	実施結果(成果)	最終予算額 (円)	決算見込額 (円)	19・20年度の 事業の方向性	19・20年度の具体的な展開方針・主 な課題
(1)	まちづくり推進事業	区民が自ら地域の課題について話し合い、区民意見を取り入れ、合意形成を図るとともに、区民と行政の協働によるまちづくりを推進する。 全体会と3つの部会(さいわいまちづくり楽校部会、ご近所の底力! まちの改善部会、ふるさと部会)を設置して取組を図る。(地域振興課)	まちづくり推進委員会の全体会を開催(14回)して、部会間の連携と取組の進行管理を行った。 「さいわいまちづくり楽校部会」、「ご近所の底力! まちの改善部会」、「ふるさと部会」では、(仮称)眺望公園のデザインワークショップへの参加を通じた市民活動のあり方の検討、地域の防災力を高めるための冊子の企画・編集、地域の歴史を活かしたまちづくりを推進するための歴史ガイドブックの作成や歴史ガイドサインの設置場所の検討にそれぞれ取組んだ(各部会とも12回開催)。 第3期まちづくり推進員会での2年間の活動の総括として、19年3月に幸市民館で「まちづくりフォーラム」を開催した(参加者約60人)。	4,171,000	3,906,445	見直し・改善 のうえ継続	・第3期まちづくり推進員会の成果を踏まえて、平成19年度に立ち上げる第4期まちづくり推進委員会が設定する具体的な取組事項に則り、区民と行政の協働によるまちづくりを推進する。
(2)	市民活動支援事業	幸区内で営利を目的としない自主的な社会貢献活動を行っている区民や団体を支援するため、打合せ、印刷作業、交流等の場や情報提供の機能を提供する、区役所庁舎内の「市民活動支援コーナー」の管理運営を行う。 また、幸区河原町に設置している、区における市民活動支援拠点「幸市民協働プラザ」の運営を行う。(地域振興課)	区役所庁舎内の「市民活動支援コーナー」は、平成19年3月末現在で利用登録団体は104団体となった。平成17年3月末の82団体と比較すると、利用登録団体は14%増加している。 「幸市民協働プラザ」は平成19年3月末現在で利用登録団体は13団体である。オープン初年度でもあり、知名度をアップするため、「市民活動支援コーナー」利用登録団体への案内送付や案内看板の設置など、施設の一層の周知を図った。 「さいわいコミュニティサイト」は、一日平均2,000件を超えるアクセスがあった。	4,113,000	3,602,282	見直し・改善 のうえ継続	・幸市民協働プラザの周知と利用促進を行う。 ・全市的なポータルサイトが検討されており、関係局とも調整を行い、コミュニティサイトの位置づけ・活用促進を検討する。
(3)	シニアITリーダー養成推進事業	概ね50歳以上の中高年(シニア)を対象として、ITリーダーを養成する講習会を開催することにより、高齢者になっても社会とつながりあえる区づくりを推進する。 また、ITを活用した様々な情報収集及びコミュニケーション手法の拡充などによる、シニアの市民活動や地域活動への参加促進につなげる。(地域振興課)	平成19年2月、幸市民協働プラザを会場に5日間の講習会を実施した(定員10名、応募者29人。抽選)。 定員に対して約3倍の応募があり、シニアのIT技能への意識・関心の高さが示された。受講者はパソコン初心者が多かったことから、講習内容がリーダー養成に至るレベルまでのプログラムとはならず、シニアITリーダー養成までには至らなかった。	316,000	192,400	見直し・改善 のうえ継続	・シニアのIT技能に対する関心は高いことから、シニアの市民活動や地域活動への参加促進につなげるという事業の目的に照らして、事業内容の変更、募集対象・募集方法、費用対効果などを検討する。

2 豊かな心を育む地域文化の向上を目指して

(1)	音楽のまち推進事業	区役所ロビーで気軽に楽しめる定期コンサート「夢こんさあと」や、若者を中心とした演奏者に音楽活動の場を提供する「街かどコンサート」などを開催することにより、区民が身近な場所で音楽に親しめる環境をつくり、「音楽のまち・かわさき」を推進する。(地域振興課)	幸区役所ロビーで6回、日吉合同庁舎で2回、ラゾーナ川崎プラザソルで1回開催し、毎回200名前後の来場があった。 街かどコンサートは、4回実施した。出場希望者は第1回の4組から第4回は21組、来場者数も第1回の76人から第4回の195人と着実に増加した。来場者アンケートでは90%が好評価としている。	2,300,000	2,187,487	見直し・改善 のうえ継続	・より多くの区民に親んでもらえるよう検討する。 ・より達成度が客観的に測れるよう、事業ごとにアンケートを実施するなど指標の設定を検討する。
-----	-----------	---	--	-----------	-----------	-----------------	--

	事業名	事業概要	実施結果(成果)	最終予算額 (円)	決算見込額 (円)	19・20年度の 事業の方向性	19・20年度の具体的な展開方針・主 な課題
(2)	さいわいテクノ 塾事業	科学技術関係機関やものづくり関連施設 が集積した幸区の特徴を生かし、区内の 施設を活用して、科学技術体験教室「さい わいテクノ塾」を開催することにより、青少 年がものづくりの基礎となる科学技術を体 験的に学ぶとともに地域と施設との結びつ きを図るきっかけとする。(地域振興課)	18年8月、9月、小学生を対象に東芝科学館で科学実験教室を 実施し、のべ48人の児童が参加した。 19年3月、小・中学生を対象に産業振興会館でロボット作製体験 教室を実施し、18チーム70人の児童・生徒が参加した。 東芝科学館でのアンケート結果では、76%の参加者が「また参 加したい」と評価しており、区内の小中学生に科学技術への関心 を抱かせるとともに、各施設への理解を深めた。	2,008,000	998,187	見直し・改善 のうえ継続	・対象者を小中学校生から、その親 や一般の大人に拡げること検討す る。 ・区内立地企業の区外の施設を活用 した実施を検討する。 ・公募に加え学校単位での参加な ど、より一層の学校との連携を検討 する。
(3)	さいわい動物愛 護推進事業	こども向けの動物愛護啓発小冊子を作 成・配布することで、こどもたちの心に命の 尊さの意識を育むとともに、動物の愛護、 適正な取扱い、遺棄の予防など、終生飼 い続けることの重要性について啓発を行う。 また、動物の飼い主に対して、リーフレット や糞取り袋を配布することにより、飼い主 のモラルの向上を図る。(衛生課)	動物愛護小冊子「ワンコからのてがみ」を作成した(7,000部)。区 内小学校1年生に配布するとともに、区内の動物病院(5か所)や 区民祭などのイベントで配布した。動物の適正な飼養を普及啓発 するリーフレット(5,000部)、糞取り袋(1,500袋)を配布した。 また、18年8月、19年2月に動物愛護講習会を開催した(のべ39 人参加)。アンケートでは90%の参加者から受講して良かったと回 答が寄せられた。	590,000	558,368	見直し・改善 のうえ継続	・動物の飼い主の飼養管理のモラル 向上を図る啓発を検討する。
(4)	矢上川ガイド パネル事業	区民に身近な矢上川とのふれあいを通じ て、地域の自然に関する意識を高め、幸区 の環境についての理解を深めるため、矢 上川に生息する動植物等を紹介するガイド パネルを矢上川沿いに設置する。(地域振 興課)	平成15年度から平成17年度に渡って実施した「さいわいリバー ウォッチング事業」の成果を踏まえて、矢上川沿いの鷹野大橋及 び矢上橋付近の2か所にガイドパネルを設置した。 「さいわいリバーウォッチング実行委員会」との協働により、掲示 内容の検討を行い、矢上川に生息する動植物の解説、流域図、 地域の歴史、周辺案内図、区の環境事業の紹介などの情報を盛り 込んだ。	1,439,000	1,155,000	平成18年度 で終了する	河川管理者(国土交通省)や地域の 環境保全団体とガイドパネルの活用 を図る。
(5)	地域の魅力発 掘事業 (第3期まちづ くり推進委員 会の取組み)	歴史を中心とした幸区の魅力を発掘する 実践活動を行ってきた「まちづくり推進委員 会ふるさと部会」の活動成果を踏まえ、区 内の史跡等を巡る歴史散策路を紹介する ガイドブックを作成する。また、史跡・古道 にモニメントの設置を行う。(地域振興課)	歴史ガイドブック「親子で歩こうさいわい」(10,000部)の作成と、 歴史ガイドサイン(5基)の設置を行い、幸区の魅力を発掘した。 また、歴史ガイドブックは、ふりがなを付けることで、小学校の児 童にも活用できるようものとした。	1,524,000	1,407,000	平成18年度 で終了する	・他の事業の中で、引続き、地域の 魅力を知り、地域資源を活用した取 組みを進める。
(6)	環境共生のま ちづくり事業	日吉地区を中心に、自然・環境・歴史・文 化等の様々な分野で活動している地域の 団体がネットワークをつくり、関係行政機関 等と連携して、地域資源を活用した身近な まちづくりに取り組む。(生涯学習支援課)	自然・環境・歴史・文化・子育ての分野で活動している5つの市民 グループによってネットワークをつくり、準備会を7回開催した。 また、学習プログラムを設定し、エコツアーやエコミュージアム学 習会を実施したが、シンポジウム、交流会等の一部プログラムの 実施には至らなかった。	200,000	80,000	19年度終了 見込み	・19年度事業終了を見込んでいる が、各団体の横のつながりをつくり、 展開する取組みについて引き続き検 討する。

	事業名	事業概要	実施結果(成果)	最終予算額 (円)	決算見込額 (円)	19・20年度の 事業の方向性	19・20年度の具体的な展開方針・主 な課題
(7)	地域資源の活用・区の魅力づくり・魅力発信事業	幸区内の優れた人材や施設などの地域資源を区民に知ってもらい、親しんでもらうことで、保健福祉事業の啓発や区の魅力づくり・魅力発信を行う。 (総務企画課)	平成18年10月の幸区民祭では川崎フロンターレと連携して親子フットサル教室等(親子フットサル教室は22組、小学生を対象としたフットサル教室は約40人参加)を開催、幸区出身サッカー選手との交流(サイン会に約200人参加)、健康体操教室(約20人参加)の開催、健康づくりPRパネルの展示を行った。 また、平成19年2月、子育てフェスタでは区内で練習を行っているトランポリン競技選手との親子体操教室(親子約100人が参加)を行った区民祭で実施した。	247,000	229,440	19年度終了見込み	・幸区民祭での川崎フロンターレと幸スポーツセンターとの連携による区民とのふれあいイベントの継続など、関係部署との連携による地域資源の活用を定着させる方向性が明らかになったので、協働推進事業としては終了を見込む。
(8)	親子ふれあいコンサート事業 (音楽のまち推進事業)	子どもたちに音楽に親しむ機会を提供し、「音楽のまち・かわさき」の土壌を育てていくため、コンサートを開催する。(地域振興課)	平成19年2月、未就学児とその保護者を対象として、親子で楽しめる歌をコンセプトとしたコンサートを実施した(2回、のべ350人参加)。 来場者アンケートでは「楽しかった」とする好意的な評価が90%を占めた。また、実施場所は、新しく完成した施設を紹介することで幸区の新しい魅力を発信するとの趣旨から、平成18年10月にオープンしたラゾーナ川崎プラザソルとした。	1,628,000	1,485,530	平成18年度で終了する	・音楽のまち推進事業などの中で、出張コンサートなど多様な場所での実施、週末や夕方の時間帯での開催など、家族や親子で楽しめる取組みを検討する。

3 花と緑いっぱいのまちづくりを目指して

(1)	花と緑のさいわい事業	小・中学校やボランティアグループ「さいわい花クラブ」による公共花壇の花植えなど、区民が行う緑化活動や花と緑のうらおいあるまちづくりを支援することにより、緑化意識の高揚と明るい区づくりを推進する。 また、道路敷などの市有地を活用した緑豊かな環境づくりに取り組む。(地域振興課、工事課)	地域の緑化活動団体を支援するため、花苗などの提供を行った(18年11月に15団体、花苗4,300株、花種15袋、培養土1,100ℓ。19年3月に12団体、花苗3,300株、花種10袋袋、培養土1,000ℓ)。 区庁舎前花いっぱい事業(18年6月、11月、19年3月開催、各回12~15人参加)、あおぞら花市開催事業(18年10月開催、60人参加)、公共花壇花植え事業(18年6月、11月、12月開催、各回約100人参加)、地域での緑化活動のリーダー育成を目的とした花と緑のエキスパート事業(18年5月~6月「花のまちづくり講座」開催、16人参加)を実施した。 また、道路敷を活用した花壇を整備するなど身近な緑の創設に取り組んだ。	10,454,000	8,821,765	見直し・改善のうえ継続	・より客観的に達成度が測れるよう、アンケートを実施するなど指標の設定を検討する。 ・道路敷に設置した花壇等の維持管理は地域の協力による方法を検討する。
-----	------------	--	--	------------	-----------	-------------	--

4 区民に身近な区及び区役所を目指して

(1)	さいわいガイドマップ改訂・増刷事業	幸区の地理や公共施設、医療機関の一覧など区民生活に必要な基礎的な情報を提供するため、幸区への転入者を主な配布対象者とする「さいわいガイドマップ」を改訂・増刷する。(地域振興課)	さいわいガイドマップを増刷した(1万部)。また、川崎駅西口地区や新川崎地区の再開発の現況に合わせて情報更新を行った。	956,000	827,400	見直し・改善のうえ継続	・改訂にあたっては、ホームページアドレスやQRコードの記載を検討する。
(2)	区民に身近な区役所づくり推進事業	区民に身近な区役所づくりを推進するため、利用者である区民の視点に立った窓口サービスを向上させる取組を行う。(総務企画課、区民課、市民税課、地域保健福祉課、保健福祉サービス課、衛生課、保険年金課)	区民が快適で利用しやすい窓口環境を整備するため、個人情報保護の取組として、窓口カウンター用仕切りパネルの設置や申請書類記載台の増設した。また、待合用のいす、窓口カウンターの照明、番号発券機の増設と、区役所1階の広報コーナーの更新を実施した。 幸区への転入者に対して、「かわさき生活ガイド」「ごみカレンダー」等の情報誌を一括して入れて配布するため、転入者歓迎封筒を作成した(1万枚)。	4,304,000	4,291,717	見直し・改善のうえ継続	・来庁者アンケートなどにより整備効果の把握を検討する。 ・転入者歓迎封筒の作成について、広告入り寄付封筒の活用を図り、市民サービス効果を維持しながら、経費の節減を検討する。

	事業名	事業概要	実施結果(成果)	最終予算額 (円)	決算見込額 (円)	19・20年度の 事業の方向性	19・20年度の具体的な展開方針・主 な課題
(3)	シンボルマーク 普及事業	平成4年に制定された幸区のシンボル マークの普及を推進し、幸区のイメージ アップを図る。(地域振興課)	各種スポーツ大会の優勝カップのレプリカを作製し、授与するこ とにより、幸区のシンボルマークの普及を推進した。(幸区少年野 球春季大会、幸区町内会対抗バレーボール大会、幸区子ども会 連合会少年野球大会、幸区町内会対抗グラウンドゴルフ大会、幸 区町内会対抗男子ソフトボール大会。各種大会に、のべ1,500人 が参加)	983,000	98,773	見直し・改善 のうえ継続	・区長杯レプリカへのシンボルマーク 表示は継続するが、平成20年度から シンボルマーク表示のグッズ作成は 終了し、区役所各課が作成している 配布物等にシンボルマークを表示す る見直しを検討する。
(4)	情報発信推進 事業	区のホームページを区民にとってより必 要な情報が掲載されていて情報が得やす いようにするホームページリニューアルを 行うとともに、職員への情報化の研修体制 を整備し、ホームページの内容充実に向け た意識改革を図る。(総務企画課)	ホームページのトップページのデザインとレイアウトをリニューア ルするとともに、その他のページのメンテナンスを行った。円滑に ホームページ作成・更新を行うため職員研修を実施した(2回、約 30人参加)。 また、幸区への転入者に区民生活に必要な情報の入手方法を 周知するため、「幸区情報発信リーフレット」を作成した(1万部)。	1,082,000	1,053,150	見直し・改善 のうえ継続	・より効果的な広報方法を検討する。 ・達成度が客観的に測れるよう、アン ケートを実施するなど指標の設定を 検討する。
(5)	区民広聴の拡 充事業	区民会議の実施状況を広報するととも に、区民ニーズを把握して施策などに反 映するため区民アンケート調査を実施す る。 (総務企画課)	アンケート回答はがき付きのリーフレット(区民会議の紹介)を区 内の全世帯に配布する方法で、区民会議への意見や地域課題等 についてのアンケート調査を行い、416件の回答があった。 アンケート速報結果について、「区民会議だより(リーフレット)」を 作成して区内の全世帯に配布した。	2,909,000	2,632,037	見直し・改善 のうえ継続	・広報内容の充実を図る。 ・アンケートの回収率を上げる方策を 検討する。
(6)	駅前周辺案内 地図改訂事業	尻手駅、鹿島田駅及び新川崎駅にある 駅前案内板の周辺地図を改訂し、区民の 利便性向上を図る。(地域振興課)	尻手駅周辺案内地図は掲示情報が古いため、再作製した。 鹿島田駅周辺案内地図及び新川崎駅周辺案内地図は、都市再 開発等が現在進行中のため再作製は行わず、それぞれ部分修正 した。	1,171,000	708,750	18年度で終 了する	・平成19年度は矢向駅前周辺案内地 図と市立商業高校前周辺案内地図 について、改訂を実施する。
(7)	保健福祉情報 発信事業	保健福祉センターの保健・福祉サービ ス等の内容を掲載した情報誌「保健福祉セ ンターだより」を作成する。区内の全世帯に 配布することにより、区民の保健福祉に関 する関心と理解を深めるとともに利便性を 高める。(地域保健福祉課)	保健福祉センターだよりの上半期は、保健福祉センター業務内 容の紹介と問合せ先一覧を掲載した。 下半期は「今、区民の方にもっとも伝えたいこと」をテーマにし、 保健・福祉サービス等の事業案内や日程などを掲載した。半期ご とに6万4千部を作成し区内の全世帯に配布した。	3,253,000	2,836,889	見直し・改善 のうえ継続	・保健福祉センターだよりをホーム ページに掲載することを検討する。 ・より達成度が客観的に測れるよう、 アンケートを実施するなど指標の設 定を検討する。
(8)	さいわいイメ ージアップ事業	第3回アメリカンフットボールワールドカ ップ2007川崎大会が、平成19年7月に川崎 球場・等々力陸上競技場を試合会場に開 催されることから、会場への交通アクセス の利便性が高い幸区内の主要箇所ToWorld カップ開催を広報する看板や横断幕を 設置し、大会への周知関心を高めるとも に、幸区のイメージアップを図る。(総務企 画課)	鉄道利用者を対象に、ワールドカップ開催を広報する大型看板 をJR南武線の川崎駅・尻手駅間線路沿い1か所に設置した。交 通量が多く、見通しの良い歩道橋(さいわい歩道橋3か所、大宮中 幸町線歩道橋1か所)に横断幕を掲示した。	834,000	763,455	19年度終了 見込み	・ワールドカップ川崎大会の終了(19 年7月)により、ワールドカップを活用 した事業としては終了する。

5 健康で安心な暮らしができる区づくりを目指して

(1)	安全・安心まち づくり普及啓発 事業	区民が安全に安心して暮らせるまちづ くりを推進するため、防犯教室を実施するな ど、「自分の身は自分で守る」、「自分たち のまちは自分たちで守る」という自助・共助 の取組を支援する。(地域振興課)	19年1月に県くらし安全指導員を講師として招き、防犯教室を開 催し、町内会・自治会から50人の区民が参加した。 また、18年10月に鹿島田駅頭において街頭キャンペーンを実施 した。	431,000	430,500	見直し・改善 のうえ継続	・平成19年度は青色回転灯を利用し たパトロール活動に重点的に取組 む。
-----	--------------------------	---	---	---------	---------	-----------------	--

	事業名	事業概要	実施結果(成果)	最終予算額 (円)	決算見込額 (円)	19・20年度の 事業の方向性	19・20年度の具体的な展開方針・主 な課題
(2)	交通安全の普及啓発事業	正しい交通ルールと交通マナー等の交通安全知識を区民一人ひとりに普及し、交通安全意識の高揚を図り、交通事故のない安全で住みよい幸区を実現するため、普及啓発事業を実施する。(地域振興課)	自転車による交通事故の防止を図るため、交通安全への注意喚起を促す電柱幕を作成し町内会・自治会を通じて配布した(電柱幕41本)。	504,000	462,000	見直し・改善 のうえ継続	・交通事故防止に向けて引き続き取り組む。 ・より達成度が客観的に測れるよう、アンケートを実施するなど指標の設定を検討する。
(3)	さいわい・自転車との共生のまちプロジェクト (自転車放置区域内啓発看板設置)	自転車等放置禁止区域内に、看板や路面表示シートを設置することにより、自転車等の放置防止や駐輪場への誘導を自転車利用者へ啓発する。(地域振興課)	自転車等放置が特に多い場所に、放置禁止看板及び路面表示シート(各30枚)を設置して、自転車利用者への啓発を図った。	1,596,000	1,254,750	18年度で終了する	・19年度については、放置自転車禁止区域の啓発を継続して行い、町内会等と連携した取り組みを進める。
(4)	さいわい健全で安全な食生活推進プロジェクト	食に関する知識と食を選ぶ力を身に付けるための「食育」を推進するため、地域の状況に応じた取組を図るため、関係機関や団体のネットワークをつくり、食育シンポジウムを実施する。また、高齢者の食中毒予防を図るため、家庭における食生活及び食品衛生の指導・啓発を推進する。(地域保健福祉課、衛生課)	平成19年1月、食育シンポジウムを開催した(参加者47人)。食育に係る関係機関や団体と一般市民が意見交換を行い、地域全体で食育に取り組んでいくことの必要性を確認した。また、食育の講習会を年3回開催(のべ69人参加)した。 平成17年度に作成した小冊子「我が家の食品衛生」を4,000部増刷し、街頭食中毒予防キャンペーンや衛生講習会等で配布した。平成19年2月、独居老人等に配食・会食を行っているボランティア団体を対象に、小冊子を活用した食中毒予防の衛生講習会を開催した(区内で活動する19団体のうち12団体が参加)。	652,000	628,510	19年度終了見込み	・食育については、20年度から市の事業の食育推進事業に移行し、協働推進事業としては終了する。
(5)	8020運動・小学生啓発プロジェクト	乳歯と永久歯が混合している小学生の年頃から、口腔の健康を正確に認識し、口腔の健康の保持・増進に強い関心を持つことで、虫歯等の口腔疾患の予防・早期発見に役立てるため、小学生とその親を対象として、実習を兼ねた健康教室を実施する。(地域保健福祉課)	平成18年7月、健康教室「お口の中を楽しく学ぼう」を、幸区歯科医師会と協働で実施し、親子54人が参加した。 参加者アンケートの結果では、全員が「楽しく学べた」としており、参加者の満足度は高かった。	393,000	392,800	見直し・改善 のうえ継続	・学校との連携を検討する。 ・費用対効果を検討する。
(6)	こども総合支援推進事業	子育て家庭の育児不安を解消し、安心して子どもを育てることができる社会をめざして、総合的な子育て支援体制を確立し、地域全体で子育てを支援する環境づくりを進める。区内のこども支援に係る機関や行政によるネットワークを構築し、相互に連絡調整機能の強化を図るとともに、子育て関連情報紙を提供する。(こども総合支援担当)	平成19年2月、子育てを行っている親と地域で子育てを支援する団体・ボランティアとの交流を図るため、「みんなで子育てフェアさいわい」を開催した(延べ421人参加)。 父親の育児参加を支援するため、地域子育て支援センターふるいちばの第3土曜日開設を平成18年5月から試行実施した。試行開設当初の18年5月と比較して、19年3月では父親の参加率が7%上昇した。 「こども総合支援ネットワーク会議」を年3回、その部会である「こども支援推進会議」を年5回開催した。各機関の役割分担と連携、情報の共有化を図った。 また、未就学児を対象とした子育て情報紙『みる』子育て情報さいわい』を年2回(9月、3月、各8,000部)を発行した。	1,726,000	1,144,579	見直し・改善 のうえ継続	・情報紙の作成について、より達成度が客観的に測れるよう、アンケート実施などを検討する。 ・『みる』子育て情報さいわい』と子育てガイドブック「おこさまっぷ さいわい」などとの役割を整理して、より効果が発揮できるように検討する。

	事業名	事業概要	実施結果(成果)	最終予算額 (円)	決算見込額 (円)	19・20年度の 事業の方向性	19・20年度の具体的な展開方針・主 な課題
(7)	幸区子育てガイドブック作成事業	区内の育児に関する情報をわかりやすく提供する子育てガイドブック「おこさまっふさいわい」を、改訂・増刷する。(保健福祉サービス課)	子育てガイドブック「おこさまっふ さいわい」を作成、配布した(平成18年10月に5千部、平成19年2月に3千部)。また、遊具やトイレ等に変更のあった公園の情報や新たにスタートした子育てフリースペースの情報を加えるなど内容の充実を図った。	2,079,000	2,073,846	見直し・改善 のうえ継続	・区民のニーズを確認して、保育所や小児科についての情報提供を検討する。 ・「おこさまっふ さいわい」のホームページ掲載を検討する。また、次期改訂までの期間はホームページで更新情報が見られるようにすることを検討する。
(8)	身近な防災推進事業 (第3期まちづくり推進委員会の 取組み)	地域防災を中心とした調査・研究や実践活動を行ってきた「まちづくり推進委員会ご近所の底力！まちの改善部会」の活動成果を踏まえ、避難時に想定される避難路や避難場所等を掲載した避難マップを作成し、区民の防災意識の高揚を図る。(地域振興課)	災害時の対応や地域防災力強化に向けた提案等を掲載した冊子「区民がつくるまちの防災力」を作成した(6,000部)。冊子の普及により地域防災意識向上の効果が見込まれる。	966,000	945,000	18年度で終了する	・冊子「区民がつくるまちの防災力」を活用する。
(9)	地域防災啓発事業	区民の防災知識の普及・啓発、防災意識の高揚を図るため、地域防災活動を担う各種団体と連携して、幸区防災フェアを実施する。(総務企画課)	平成19年1月に「幸区防災フェア」を開催した。幸市民館ロビーで地域防災活動を担う各種団体の訓練活動風景等のパネル展示を行った。また、危機管理アドバイザーのよる講演会を実施し、地域防災活動を担う各種団体(町内会、日赤奉仕団、消防団、民生委員協議会、自主防災組織など)のメンバーを含めて118人の参加があった。各種団体間相互の連携や協力体制の必要性について共通の認識を図った。	365,000	310,800	見直し・改善 のうえ継続	・防災意識の高揚・啓発事業を通して、地域防災活動の実践的取組み、共助の体制づくりを進める。
(10)	健康づくりふれあい講演会等実施事業	区民会議の審議テーマの一つである「健康で生きがいのもてる地域づくり」に関連する講演会を実施して、区民会議と健康づくりについての広報を行う。また、講演会の参加者にアンケート調査を行い区民会議の審議資料として活用する。(総務企画課)	平成19年3月、ラゾーナ川崎プラザソルで健康づくりふれあい講演会を開催(参加者104人)。日ごろからの健康づくりや介護予防の必要性について情報発信した。参加者へのアンケート調査の実施、高齢者の健康づくりへの意識やニーズを把握し、区民会議での審議資料として活用した。	800,000	798,000	18年度で終了する	・H19年度の区民会議での審議などを踏まえ、今後の事業展開を検討する。

6 その他

(1)	その他事務経費	協働推進事業を実施するために必要な事務経費(複写品費、郵便料など)等。	—	715,000	427,883	見直し・改善 のうえ継続	・事務経費として事業立てするのか、各個別事業ごとに事務経費を計上するのか、を検討する。
-----	---------	-------------------------------------	---	---------	---------	-----------------	---

18年度予算 55,000,000円

46,704,743